

NOVA ION 7

イオン7

Versatile by design



Blue



Lime



Sangria

サイズ	XXS	XS	S	M	L
セル数	51				
投影翼面積 (m ²)	18.30	20.20	22.20	24.30	26.30
翼面積 (m ²)	21.40	23.60	26.00	28.40	30.80
投影スパン (m)	データなし				
スパン (m)	10.50	11.00	11.60	12.10	12.60
投影アスペクト比	3.86				
アスペクト比	5.17				
機体重量 (kg)	4.2	4.5	4.8	5.1	5.4
フライト重量 (kg)	55-85	70-95	80-105	90-115	100-130
認証 (EN/LTF)	B	B	B	B	B



AERFACT

ニコリ、ご機嫌なハンドリング

届いたばかりのイオン7のサイズXS (70-95kg) に、メーカー推奨ウエイトレンジ (80-90kg) のど真ん中の85kgでテストフライトを行いました。強めの南風が吹く午後でしたが、斜面際でのタイトなセンターリングを重ねるたびに、自分の顔がほころんでいくのがわかります。

NOVAのテストパイロットを務めるフランスのテオやイタリアのドニーニらは、言わずと知れたアクロバットのチャンピオンで、エックスアルプスアスリートです。岩盤が続くフランスアルプスやドロミテ育ちの彼らがチューニングすると、こんなに素晴らしいハンドリングになるのかと驚くばかりです。

追い風で斜面に向かっても、翻るような心地の良いバンク。かなりのハイバンクでも、パイロットが振り回されるような遠心力を感じることがなく、バンク維持も簡単です。当然旋回半径は小さく、狙ったサーマルを外すことはない。この特別な感覚には驚きです。



新しい設計ソフトウェアにより、最高のオールラウンダーが完成しました。



新ロッドループを採用したエアスクープとミッドセルリンクにより、リーディングエッジの安定性がさらに最適化されました。

イオン6とは全く別物

サーマルトップに達するまでいろいろな旋回を試みましたが、イオン7のファーストインプレッションは、斜面際でもリスクを感じないバンク維持のやりやすさと、サーマルへの食いつきの良さに尽きます。自由自在なロールインロールアウトで、サーマルセンターリングをストレスなく行えるソアリングマシーンといつてよいでしょう。

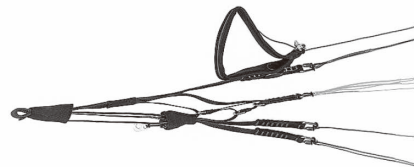
キャノピーを見上げると、メンター7譲りのプランフォームを持ち、イオン6とは全く別物の機体であることは明らかです。エアインテイクは小さめで、今までは違うエアスクープはシャークノーズに近い形状。ロッドループとミッドセルリンクでリーディングエッジの形状がしっかり保たれていることが、サーマルへの食いつきの良さにつながっているのでしょうか。

フルアクセル時の安定性と心地よいハンドリング

ヘッドウインドを突きながら、アクセルワークでベストグライドを試してみました。まずフルスピードまで、全く翼がぶれることなくアクセルが使えることは特筆に値します。アクセルバーとCライザーコントロールのプレッシャーは程よく、ベストグライドを使いこなすことでより遠くまでたどり着くことができるでしょう。イオン7のサーマルサーチ能力も優秀で、ヘッドウインドではハーフアクセルで進むと風の変化に翼が反応し、沈下率を確認しながらリフト帯を追いかけすることができます。

対地高度が200mを切ったところで、追い風でのローセーブを試みました。アクセルを戻し、翼をほんの少し抑えて飛ぶことで、よりサーマルの存在を感じやすくなります。サーマルを追い越してしまわないよう、サーマルを感じたらヘッドウインドに機首を向け、高度をロスしないように細心の注意を払いながらサーマルをサーチします。イオン7の気流変化への対応能力は素晴らしく、ピッチ、ロール、ヨーのバランスの良さと、揺れが最小に収まるのも素晴らしい特性です。

しかも、ハンドリングがよく微妙なリフト帯にもとどまることが可能です。5分ぐらいリフト帯にとどまったところでサーマルがブレイクし、渋いながらも上昇開始。イオン7はとて浮きの良い機体であることは、このローセーブで明らかになりました。



幅12mmの頑丈なケブラーライザーが標準装備されています。

イオン7はNOVAの代表作になるでしょう!

高度が十分に保てたところで、スパイラル、Bストール、ビッグイヤーなどの降下手段を試してみます。最近ではBクラスでもBストールをやり難いモデルも多くなっていますが、イオン7に関してはBストールがおすすめの降下手段です。スパイラルはエントリーが簡単で、遠心力も程よいGに収まり、リカバリー時のおつりの振り子運動も最小限です。

ビッグイヤーも暴れることはなく、幅広いスピードレンジでアクセルと併用することで、大きな沈下を得ることができます。リカバリーはライザーから指を外すだけで自動的に戻ってくれるので、うっかり失速に入ることなく安心感があります。

これまでとは違う、全く新しい乗り味のイオン7のファーストインプレッションは素晴らしいものでした。ハンドリング、サーマルサーチ、グライディングどれをとっても、満足度の高い仕上がりは、経験豊富なパイロットをも唸らせるようなEN-Bに仕上がっています。

ぜひ一度この、「全く新しいION」を試してもらいたいものです。

REPORT: 扇澤 郁



オプションで効果的なピッチコントロールを可能にするXCライザーを用意しています。